

デジタル録音機器を用いた簡便性を重視した 授業研修システムの構築

| | |
|----------------|---|
| 学校名 | ICレコーダー授業研修システム研究会 |
| 所在地 | 〒511-0811 三重県桑名市大字東方1795番地 |
| 職員数/会員数 | 9名 |
| 学校長 | 川本 健 |
| 研究代表者 | 近藤 泰城 |
| ホームページ アドレス | http://www.kuwana-h.ed.jp/ |



1. はじめに

研究授業などが日常的に行われる小中学校に比べ、高等学校では互いの授業を観察し意見交換を行うなどの文化に乏しい。また、近年の多忙化により、益々他者の授業を見ることによる授業力の向上が難しくつつある。そのような中、最近音質が向上した IC レコーダーを利用することによって、授業のノウハウを共有し、授業力を高めることが可能ではないかと考え、IC レコーダー授業研修システム研究会を発足した。

2. 研究の目的

IC レコーダーによる録音は、研究授業やビデオ録画に比べ情報は劣るが、録音する時、聞いて研修する時に手軽なので、研修の継続性などの点で優れており、特に互いに授業を見ることで研修する文化に乏しい高等学校において、有効であることを明らかにする。

3. 研究の方法

- ・ 研究会のメンバーに IC レコーダーを配布し、利用していただく。具体的には、授業を録音し、自分で聞く、職場の同僚と聞きあう、本会の会員と相互に聞きあうなどして研修を深める。
- ・ 研修会を開催し、意見交換を行い、問題意識を共有する。
- ・ メーリングリストを設置し、日常的な意見交換を行う。

<http://groups.yahoo.co.jp/>を活用する。

- ・ 各自が録音した音声ファイルを共有し、研修を深める。三重県の公立高校を結ぶ「くものすネットワーク」内に共有サーバーを設置する。また、マイクロソフト社の SkyDrive のサービスを活用する。
- ・ 事前・事後にアンケートを行い、本研修システムに関する事前の意識、その後の変化などを把握する。

4. 研究の内容

(1) ICレコーダーを研究授業と比較したメリット・デメリット

研究授業は、五感を使って授業を感じることができるという点で優れている。しかし、観察者がいることによって授業者・児童生徒とも特別な緊張が強いられ、自然な様子を観察できないという問題点がある。一方、小さく目立たない IC レコーダーによる録音では、自然な日常的な授業に関する情報を得ることができると考えられる。授業者自身が機器を操作し頻繁に記録することができ、観察者も時間的な制約がなく研修ができると思われる。

(2) ICレコーダーをビデオ録画と比較したメリット・デメリット

ビデオ録画は授業者の動き、児童生徒の反応などの視覚情報が得られ、また研究授業に比べて、観察される側の心理的負担が少ない。しかし、個々の教員が日常的に行う場合、ビデオカメラの設置の手間、アングルが限られること、録画されているという心理的な負担などの問題点がある。また、観察者もテレビの前で時間を過ごさねばならないという問題点

がある。IC レコーダーによる録音では、移動中や単純作業中などに聞くことができ、手軽に頻繁に研修が可能となる。本研究は、このような授業研修における IC レコーダーの有効性を明らかにしようとする。

5. 研究の経過

| | |
|-------|---|
| 6月初旬 | IC レコーダーの機種検討を始める。 |
| 6月下旬 | 3種類の候補を決め、1台ずつ購入。音質、使い勝手、価格、パソコンとの連携などについて検討し、DIPLY ICR-PS501RM に決定した。検討した他の2機種は、ICD-SX950 と G-20 であった。 |
| 7月中旬 | 通販業者より、DIPLY ICR-PS501RM を 22 台購入。研修会開催に向けて、会員の予定調整を開始。 |
| 8月下旬 | 8/29 筆者の勤務校、三重県立桑名高等学校にて、研修会を開催。会員に加え、神奈川大学の久保野雅史先生、京都外国語大学の鈴木寿一先生にもご参加いただき、IC レコーダーの利用方法、有用性、アンケートの内容について討論を行った。その後、事前アンケートに回答いただいた。 |
| 9月初旬 | IC レコーダーの利用を開始。メーリングリストにより、情報交換を開始。 |
| 10月初旬 | 三重県公立高校を結ぶイントラネットであるくものすネットワークの中に共有サーバーを設定し、音声ファイルを共有できる体制を整えた。マイクロソフト社の SkyDrive のサービスも利用する。 |
| 10月下旬 | 互いの授業録音を聞き、メーリングリストで意見交換を行う。 |
| 11月上旬 | くものすネットワークの共有サーバーや SkyDrive の使い勝手が悪いことが分かり、CDR や IC レコーダーそのものを郵送するなどして、音声データを共有した。 |
| 11月下旬 | 11/29(日)外国語教育メディア学会中部支部研究大会（於三重大学附属中学校）で筆者が本研究会について発表。 |
| 2月初旬 | 筆者の勤務校の教職経験 1～2年の国語の先生方の「先輩の授業を聞きたい」という強い要望を知り、IC レコーダーを利用いただく。 |
| 2月中旬 | 事後アンケートを実施。 |

6. 研究の成果と今後の課題

(1) 数値データの分析

IC レコーダーの授業力向上への効果を明らかにするために、IC レコーダーの利用前後で、意識調査のアンケートを行った。

質問1：自分の授業を録音して聞くことは役立つと思いますか？

| | 全くそう 思わない | そう 思わない | どちらとも いえない | そう思う | 強く そう思う |
|----|--------------|------------|---------------|------|------------|
| 事前 | 0 | 1 | 4 | 8 | 4 |
| 事後 | 0 | 1 | 1 | 8 | 7 |

質問2：他の先生の授業の録音を聞くことは役立つと思いますか？

| | 全くそう 思わない | そう 思わない | どちらとも いえない | そう思う | 強く そう思う |
|----|--------------|------------|---------------|------|------------|
| 事前 | 0 | 0 | 6 | 9 | 2 |
| 事後 | 0 | 0 | 4 | 7 | 6 |

自分の授業や他の先生の授業の録音を聞くことについて、IC レコーダーを利用することによって意識が変化したことが分かる。利用する前は「音だけでは十分な情報を得られないであろう」と感じる傾向があったと思われる。その意識の変化が、より明確に表れるのではと、研究授業やビデオ録画と IC レコーダーを比較したのが以下の質問3と4である。

質問3. 研究授業を見た場合に比較して、録音された音声のみで得られる情報はどの程度だと感じますか？活動はペアワークまでとします。グループ活動などは含まないと考えてください。

| | 1 二割 以下 | 2 四割 前後 | 3 六割 前後 | 4 八割 前後 | 5 ほぼ 十割 |
|----|------------|------------|------------|------------|------------|
| 事前 | 3 | 8 | 4 | 2 | 0 |
| 事後 | 1 | 5 | 5 | 6 | 0 |

質問4：教室の後ろから黒板全体が写るように設置した固定のビデオカメラによる撮影で得られる情報量に比較して、音声のみで得られる情報はどの程度だと感じますか？活動はペアワークまでとします。グループ活動などは含まないと考えてください。

| | 1 二割 以下 | 2 四割 前後 | 3 六割 前後 | 4 八割 前後 | 5 ほぼ 十割 |
|----|------------|------------|------------|------------|------------|
| 事前 | 1 | 7 | 7 | 2 | 0 |
| 事後 | 0 | 5 | 4 | 8 | 0 |

表を見ると事前には事後では、音声だけで得られる情報が多いと感じる度合いが高まっていると分かる。音声だけの研修を経験することによって、その効果を実感できたと考えられる。

ビデオより情報量は劣るが、移動中など「ながら」で聞くことが可能である IC レコーダーの利点についての意識を確認するために以下の質問をした。

質問5：授業を撮影したビデオを見るのと、情報量は少ないが「ながら」でも聞くことが可能な IC レコーダーの録音を比較した場合、IC レコーダーのほうが有効だと思う。

| | 全くそう 思わない | そう 思わない | どちらとも いえない | そう思う | 強く そう思う |
|----|--------------|------------|---------------|------|------------|
| 事前 | 1 | 3 | 8 | 5 | 0 |
| 事後 | 1 | 1 | 4 | 9 | 2 |

質問6：総じて IC レコーダーを今回のように授業力を高めるために使うことは有効だと思いますか？

| | 全くそう 思わない | そう 思わない | どちらとも いえない | そう思う | 強く そう思う |
|----|--------------|------------|---------------|------|------------|
| 事前 | 0 | 0 | 6 | 8 | 3 |
| 事後 | 0 | 0 | 2 | 5 | 10 |

これらの回答からも IC レコーダーの利用を経験することにより、全体として IC レコーダーが有効だという意識が高まっていると判断できる。また、次の質問と回答から、「他の先生の授業を見たい」という意識は一定高まったとも判断できそうである。IC レコーダーを利用することにより、研究授業やビデオによる研修に積極的な態度が生まれる可能性がある。

質問7：あなた自身は、他の先生の授業を見たいと感じていますか？

| | 全くそう 思わない | そう 思わない | どちらとも いえない | そう思う | 強く そう思う |
|----|--------------|------------|---------------|------|------------|
| 事前 | 0 | 2 | 1 | 7 | 7 |
| 事後 | 0 | 0 | 3 | 5 | 9 |

この他に、自分の授業を見せたり、録画・録音して他の教員に見たり、聞いたりしてもらったりすることへの抵抗感が減り、積極的に自分の授業を公開できるようになると考えアンケートを行ったが、期待した変化はなかった。やはり自分の授業を見せることへの抵抗感は根強いものがあるようである。

(2) 自由記述の分析

参加者へのアンケートに書かれた自由記述について、内容との分析を記す。

1. 自分の授業を録音することで、授業の構成など、以前よりも考えるようになった。同時に、他の人はどうやって授業を組み立てているのだろうかかと以前にもまして興味を持つようになった。
2. 実際に使ってみて、思った以上に授業の雰囲気を感じることができ、授業の進め方や問の取り方、質問の仕方など参考になりました。

3. ベテランの先生方の授業を聞き、自分の不足している部分を補えると思います。自分では思いつかなかった教え方や言い回しを知ることができて、有効でした。

4. IC レコーダーの利点は断然、「ながらでも聞くことができること」で、それが継続性に強く繋がると思います。ビデオの1回の撮影から得ることは1回の IC レコーダー録音で得ることより多いですが、ビデオでは継続が難しく、そのため結局、長期的・総合的には、継続性のある IC レコーダー方式のほうが得ることが多くなり、より効果的だと思います。

まず、肯定的な意見を選んだ。「4. 研究の内容」で記述した IC レコーダーの利点を参加者が実感してくれていることが分かる。

5. 有効かもしれませんが、私的な録音をお願いさせて貰っても快諾を頂くのは難しかったので、それをアップして皆で共有というのは感情面で難しいかもしれないです。身近な話で例示する際にプライバシーに関する考慮が必要になったり、生徒が質疑応答に答えづらくなったりと、録音と思うといつも通りの授業がしにくいというのはよく聞きました。

6. (ネットワークを通じて共有することは) 良いのは分かりますが、流出が怖いです。

個人情報、プライバシーの問題は大変重要である。今後検討が必要である。まずは校内、同僚どうしから始めるべきであろう。

7. 音声だけでの授業研究にまだ懐疑的。

8. 一番の原因は「授業改善への無関心」だと思う。

上記の二つの意見は、職場で、また校外の研修会で積極的に授業改善に取り組まれている参加者からの意見である。既に積極的に取り組まれている方々には音声だけは不十分に感じられても、自分の授業に問題を感じ改善の糸口を探している方々に IC レコーダーは有効ではないかと考えられる。

7. おわりに

今回の研究で、日常から研修会等に積極的に参加し、音声だけでは十分でないと感じる方はいるものの、全体として、授業力を高めるために、IC レコーダーで録音した自分や他の先生の音声を聞くことが有効であると実証できたと考えている。一方、個人情報・プライバシーの問題を考慮すべきであると改めて実感した。

上記を踏まえ、今後は新規採用教員と指導教官、あるいは同一学年同一科目担当者間など狭い範囲での共有を中心に活用し、一方で、達人と呼ばれる方々の録音を個人情報の問題などをクリアした状態で共有できたらと考えている。